

キャンパスを歩き、街を訪ねる。

弥生キャンパスの隣にある根津小学校。ここは「一日東大生」の授業で農学生命科学研究科とのつきあいも長い。今回は根津小の校長先生をお招きし、農学生命科学図書館を訪ねる。また、正門からほんの少し歩いたところに、明治から続くおでん屋「呑喜」がある。その四代目ご主人の話聞く。

電子化をめざす知の宝庫

東京大学 農学生命科学図書館

1965年(昭和40年)設立の図書館。農学系雑誌センター館としても知られ、380,000冊以上の蔵書には最新研究を載せた英文誌も含まれる。

「小学生にはまだ無理かもしれませんが、珍しい図鑑なども置いてありますので、根津小学校の教員の方々もぜひご利用ください。」そう言って長澤館長は伊藤校長を館内の見学に誘った。

長澤館長の専門は天然の有機物の化学構造と機能の研究。たとえば貝がどのようなメカニズムで炭酸カルシウムの殻をつくるのかということ調べている。一見、この図書館と深いつながりがありそうだが、館長としての仕事はまったくの別物。大学の図書館委員会の委員も兼務し、全体の構想のなかで当館の独自性を活かすための調整に汗を流す。

今一番の悩みは、情報の電子化。どこからでも書籍や雑誌の情報を検索できるようにしたい。しかし予算や体制づくりなど、一朝一夕にはいかない課題もある。

一方で電子化を進めながら、紙媒体のよさも忘れないように

したい、と館長は言う。「電子情報は便利ですが、見たい部分しか見なくなる。全体をばらばらとめくって調べるには紙の情報の方が便利です。」

当館は利用時間が学内で一番長い。朝9時から夜10時45分まで、思いついた時にいつでも利用できるのが魅力のひとつだ。「図書館の性格も、誰もが気軽にというわけにはいきませんが、できるだけたくさんの方に利用していただければ」と長澤館長は話す。



農学生命科学図書館長
生物有機化学研究室
長澤寛道 教授



専門分野の英文雑誌もかなりそろっている。



農学生命科学に関わる380,000冊以上の蔵書

農学生命科学図書館のご利用は

開館時間 平日 9:00 - 22:45
土曜日 12:00 - 17:00

ご利用方法や休館日、休業時の開館時間等は別途、図書館ホームページ <http://www.lib.a.u-tokyo.ac.jp/index.html> をご参照ください。

根津小の新たな伝統

文京区立根津小学校



明治40年代の根津小学校

1897年(明治30年)開校の根津小学校。弥生キャンパスに隣り合わせたこの学校には「一日東大生」という授業がある。

「農学部とは着任時からのつき合いなんです。談笑しながら伊藤校長は長澤館長にそう語った。

伊藤校長が根津小学校に着任したのは7年前。その頃、地域会合で「子供たちと東大との交流を深めたい」と話していると、そこにたまたま大学の関係者が居合わせた。そこでその話が当時の研究科長、林教授の耳に入り「何かやりましょう」ということになる。それが「一日東大生」のきっかけだ。初回は林教授自身が講義に立ったという。

以来このプログラムは毎年一回行われている。「教授の方々には本当に頭が下がります」と伊藤校長は言う。「なにしろ子供が相手ですので、わからせるように話をするのが一苦労だと思いますが、大学生よりしっかり聞いているよ、なんておっしゃって…。差し上げるものといえば心ばかりのお菓子と花束なので、まったくのボランティアなんです。」

すでに一世紀以上の歴史をもつ根津小学校だが、この「一日東大生」が新しい伝統となってくれたら、と伊藤校長は話す。「私も昔、東大に入りたかった一人なので、せめて根津小に来た子供は東大に入れる、というような、そんな嬉しい伝統になってくれればと思います。」



一日東大生の講義風景



文京区立根津小学校
第25代校長
伊藤敏 先生

壁に歴史が息づくおでん屋

呑喜(のんき)



農正門の前の道をいくつか歩いたところに小さなおでん屋がある。カウンターにテーブルが二つ。そっけない造りながら、なんとも言えない味わいがある。それもそのはず。ここは四代にわたって続くおでん屋なのだ。

この弥生町に店を構えたのが明治40年代。カウンターの一部には大正時代の木がそのまま使われている。

四代目ご主人の荒井保さんは小さな頃から、店の手伝いをしてきた。おでんの仕込みは50年の年季入りだ。苦勞を分かち合った弟の稔さんは一昨年に亡くなった。

ご主人は店の暖簾をぐったお客について訥々と語る。「その色紙は元首相の岸信介。じいさんの若かりし頃のお客さんです。そっちの写真は南極観測船「宗谷」の永田武隊長。向こうに行ったら帰ってこないかもしれない、なんて言っていました。」

農学部の学生もよく来た。昔はよく実験の合間に交代で食事をとりに来たという。「そういうば最近の学生さんはあんまり議論ってのをしなくなったね」とご主人は話す。「それどころか、酒を飲んでいる時は学問の話は止めよう、なんて言うものもある。」



おでん屋「呑喜」ご主人
あらい たもつ
荒井保 さん

すると、隣で飲んでいる先生が、学問するのは机に向かってやるばかりじゃないぞって叱るんです。

これからもずっと店を?と訊かれ、ご主人はにやりとした。「今は商売のことをビジネスなんていうけれど、昔、じいさん、ばあさんにいわれたんですよ。うちの商いだぞって。だから飽きたらおしまいだぞって。その気持ちで、これからもやっていきます。」



呑喜で食事する農学部学生(昭和10年代)